ニッポン ドクター和の臨終図巻

⑭ 浜尾朱美

自分より家族第一

ニュースキャスターでエッセイストでもあった浜尾朱美さんが、乳がんのために9月14日に都内の病院で亡くなられました。57歳でした。

筑紫哲也さん（2008年没）の隣でニュースを読んでいた姿を思い出します。ショートカットがお似合いで、知的な美しさが染み出ているような人でした。最近、40代、50代の乳がんの女性の訃報をよく聞きます。

漫画家のさくらももこさん（享年53）もそうだったように、浜尾さんも発覚から10年以上と長期にわたり乳がんと共存しながら活躍していました。がん治療と仕事を両立させている中で急激に病状が悪化したようです。1年前に手術を受けましたが、今年5月に不調を訴えて入院。その後も入退院を繰り返していました。世代は少し違いますが、先日亡くなられた樹木希林さんも60代で乳がんが見つかっています。

日本人の乳がんの罹患（りかん）率はこの30年で5倍以上に増えました。急増した理由として食生活の欧米化が指摘されています。乳がんの発症は30代後半と、40代後半から50代前半と2つのピークがあります。加齢に従い増加するがんですが、乳がんは若い人にできるがんの代表格です。

後者はちょうど、女性の更年期と重なりますね。これは、乳がんが、女性ホルモンのエストロゲンの分泌と大きく関係しているからです。エストロゲンは女性の身体に欠かせない大切なホルモンですが、分泌量の多い時期が長く続くほど、乳がんリスクが高まることがわかっています。

乳がんの具体的なリスク因子として、以下のようなものが挙げられます。①家族に乳がんになった人がいる②初産年齢が遅い、または出産経験がない、少ない③授乳経験がない、または短い　④閉経年齢が遅い⑤閉経後に太った―など。

これらが当てはまる人は、ぜひ1度乳がん検診を受けてください。40代、50代の女性と言えば子育てや仕事で忙しく、自分自身の分の健康管理は二の次にしてしまいがちですが、そんな世代の女性こそ自分の乳房を時々触ってください。乳がんは自分自身の手で発見できるがん、なのです。

浜尾さんもとても家族思いで、自分より家族第一という人だったそうです。「うちの嫁があてはまる」と思った夕刊フジの男性読者の皆さん。ぜひこの記事を見せて乳がん検診を勧めてあげてください。更年期障害だからと諦めて過ごし、自覚症状が出て受診して初めて乳がんが発見されたという女性は少なくありません。

大の相撲好きであったという浜尾さん。天国で10年ぶりに再会した筑紫さんと、相撲界の行く末を案じていることでしょう。

長尾和宏（ながお・かずひろ）　医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。近著「薬のやめどき」「痛くない死に方」はいずれもベストセラー。関西国際大学客員教授。